

## 保育計画成果報告書

法人名等	学校法人みどり幼稚園
施設名	認定こども園みどり幼稚園
報告者（役職）	長野 加代（園長）
住所・連絡先	〒794-0861 愛媛県今治市五十嵐甲 60 番地
	☎ 0898-31-0035
	E-mail info@imabari-midori.jp

### ○タイトル

ヨーロッパの上質な玩具を提供し、子どもの主体性を引き出そう。  
～子どものとびっきりの笑顔求めて～

### ○主な助成備品

積み木、人形、玩具、等

#### 1. 保育計画策定の目的

当園は、令和2年度より従来の幼稚園から幼保連携型認定こども園に移行し、新たに0～2歳児の保育がスタートしました。

昭和48年の創立当初より、「より多くの経験を通して、幼児の心と体を大きく育てる」ことを教育目標に掲げるとともに、子どもが心身ともに健やかに成長、発達していくには「遊び」が重要であることを踏まえ保育に努めてまいりました。子どもたちは遊びながら様々な能力を獲得していきます。その遊びのきっかけとなる玩具環境を今まで以上に充実させたいとの思いは、教職員一同の懸案でした。しかし、0～2歳児の保育は開始したばかりであり、遊びに必要な量の玩具が揃っていない現状でした。従来からの3～5歳児も含めて、さらに子どもたちが上質の玩具に出会い「遊びたい」「触れてみたい」と目を輝かせ、主体的かつ意欲的に活動することができるよう本計画を策定しました。

#### 2. 具体的な実施内容

##### <積み木遊び>

0～2歳児は、まだ想像力が乏しいため、カラフルな積み木を設置して、色合いから発想を得て遊ぶことができるよう配慮した。

3～5歳児は、想像力を満足させてくれるような芸術的かつ幾何学的な形の積み木を選んで設置した。また、ジュエル積み木（光り輝くガラス玉を埋め込んだ積み木）を購入して、従来からある積み木に加えることで、さらに遊びが深まるよう援助した。

#### <人形遊び>

人形は、抱き心地のよいものを選んで購入し、ごっこ遊びが深まるよう保育室のままごとコーナーに配置した。また、動物のぬいぐるみも併せて購入した。ぬいぐるみは、子どもが不安な時などに心の落ち着きをもたらす作用があるので、共有スペースに設置し、いつでもだれでも手に触れられるようにした。

#### <運転ごっこ>

ハンドルのついた遊具を2歳児室に設置した。バス、タクシー、トラックなど、子どものイメージによって役割が変化する運転ごっこを楽しんだ。

#### <微細遊び>

つまむ、ひっぱるなど身体機能を高める玩具や目と手の協応を育む玩具を厳選し、0～2歳児室に配置した。

#### <机上遊び>

指先の機能を高めたり、色や数などの認識力を伸ばしたりする玩具を厳選し、0～2歳児室に配置した。



### 3. その成果と評価

#### <積み木遊び>

##### ●0～2歳児

- ・思うままに並べたり、積んだりすることで、手や指を微調節する微細運動、また身体を屈めたり伸ばしたりする粗大運動など様々な身体の動きが見られた。
- ・木の肌触りを楽しむことで、感覚の発達にも好影響を与えた。

● 3～5歳児

- ・高く積み上げた塔やお城などに今回購入したジュエル積み木を飾ったり配したりしたことで、より遊びの発展が見られた。友達同士がひとつのテーマを決め街やお城を創ることで、思いを共有したり、想像力を働かせたりすることができた。また、遊ぶ過程で問題を解決する力や協調性、自主性、コミュニケーション力などが養われ、年度末には、クラスみんなで大作を作り上げ、達成感を味わった。
- ・芸術性の高いネフ社の積み木で遊ぶことで、構築力やバランス感覚、美的感覚、集中力を育むことができた。

<人形遊び>

● 0～2歳児

- ・環境の変化で心が不安定になる入園、進級当初は、肌触りのやさしい人形やぬいぐるみを抱いたり、話しかけたりして、自分の気持ちを投影する様子が見られた。そのことにより、心の安定が図られた。
- ・人形のお世話をしたり、人形を通して自らの生活を再現したりすることで、生活習慣の認識力や言葉の獲得を高めることができた。

● 3～5歳児

- ・人形に呼びかける「おはよう」「おやすみ」「お風呂に入ろうね」などの言葉から、語彙力が向上した。
- ・仲間とともに世話遊びをすることで、友達との会話や共感性が豊かになり、人間関係の深まりが見られた。

<運転ごっこ>

● 2歳児

- ・バスに見立てたり、電車に見立てたり、想像力を働かせながら複数の友達と遊んでいた。会話を楽しみながら、思いを共有しあうことができ、また運転手さんの動きや言葉を模倣することで、社会認識力も身についた。

<微細遊び>

● 0～2歳児

- ・「つまむ、めくる、ひっぱる」などの機能を備えた玩具で、繰り返しじっくり遊ぶことで、手先が器用になり、また道具を使う機能も高めることができた。

<机上遊び>

● 0～2歳児

- ・同じ色や形を集めたり、数を数えたりすることで、形や数の認識力を養うことができた。

#### 4. 今後の課題と展望

このたび助成していただいた玩具を保育室に設置することで、前項で述べたとおり、様々な成果があり、遊びの深まりも見られました。その遊びが継続し、より育ちが確かなものになるためには、保育教諭のきっかけづくりが不可欠です。

遊びは「子どもたちのもの」であるため、子どもの育ちなどで日々変化しています。保育教諭は子どもたちの思いを汲みつつ、見守るとき、援助が必要なときなどを必要に応じて見極め、より遊びが発展するような方向づけが大切であると考えます。

今後はさらに、保育教諭が玩具のもつ効用などの研究を進め、より一層の玩具環境の改善を図り、積極的かつ主体的に遊びに向かう子どもの育ちを保障していきたいと思えます。

以上